

3 福山市スポーツアンケート調査報告書(福山大学経済学部)

1 調査概要

【調査目的】

「福山市スポーツアンケート」は、福山市スポーツ振興基本計画の評価にあたり、市民のスポーツ活動への参加の実態や意識を把握することを目的とする。

【調査方法】

対象： 成人（20歳以上）2,400人（福山市住民基本台帳から無作為抽出）
児童生徒（小学生、中学生、高校生）おおむね2,000人（市内5ブロックから学校単位で選抜）

方法： アンケート調査（成人が郵送調査，児童生徒が留置き調査）
福山市と福山大学の共同で調査票を作成。

期間： 2016年6月～7月に配布・回収

【調査報告書の作成】

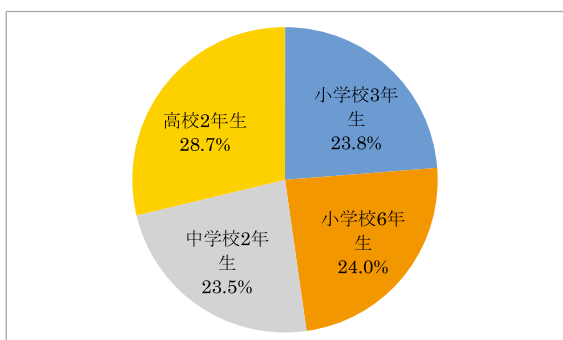
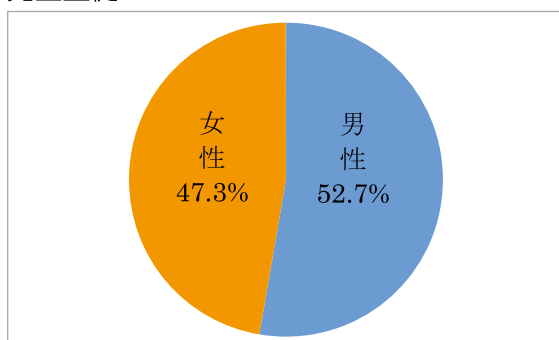
この調査は福山市が調査票を配布・回収ののち、市が進める福山大学との包括協定に基づく取組の一環として、福山大学経済学部経済学科スポーツマネジメントコースに受託研究を依頼し、集計・分析を行って報告書を作成した。

注. 以下の図・表におけるパーセント値はすべて小数点第一位で四捨五入して表示しており、各項目の和が全体のパーセント値と一致しない場合がある。

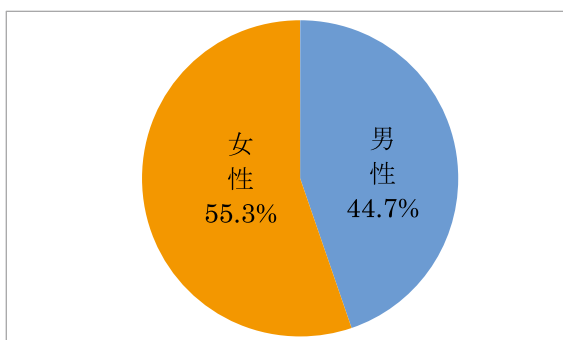
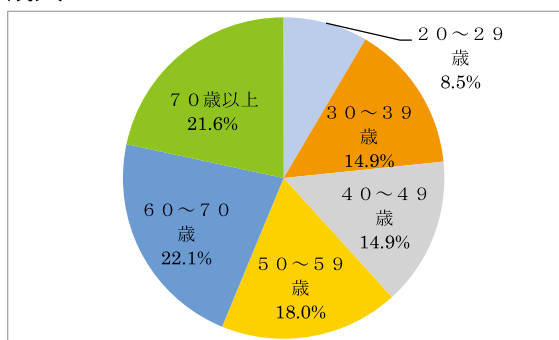
【回収結果】

配付数	回答数	回収率
2,400	800	33.3%
2,445	2,208	90.3%

児童生徒



成人

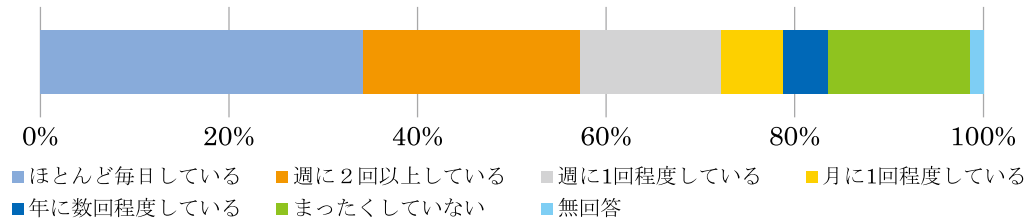


2 市民のスポーツ活動への参加

a. スポーツの実施率

ここではまず、福山市スポーツ振興基本計画の「市民が1週間に1回以上、運動する習慣があるまち」の目標への進捗状況を検証し、市民のスポーツ実施状況について概観する。

問 【児童生徒】 体育の時間を除いて、現在スポーツや運動をしていますか。



◆ 学年・男女別集計

		(1) ほとんど毎日	(2) 週2回以上	(3) 週1回程度	(4) 月1回程度	(5) 年に数回程度	(6) まったくしていない	(1) + (2) + (3) 週1回以上
男子	小学校3年	19.5%	32.0%	24.1%	4.9%	4.5%	15.0%	75.6%
	小学校6年	34.3%	30.9%	18.1%	4.2%	2.6%	9.8%	83.4%
	中学校2年	61.9%	19.1%	7.2%	3.6%	3.2%	5.0%	88.1%
	高校2年	51.7%	12.9%	9.0%	7.2%	3.6%	15.6%	73.6%
男子合計		42.6%	23.0%	14.2%	5.1%	3.5%	11.6%	79.9%
女子	小学校3年	11.2%	36.5%	30.3%	6.6%	4.6%	10.8%	78.0%
	小学校6年	16.9%	33.1%	15.0%	10.2%	8.7%	16.1%	65.0%
	中学校2年	50.8%	17.2%	13.9%	7.6%	2.1%	8.4%	81.9%
	高校2年	26.6%	9.8%	7.1%	9.8%	9.1%	37.7%	43.4%
女子合計		26.2%	23.5%	16.0%	8.6%	6.3%	19.3%	65.7%
男女計	小学校3年	15.6%	34.1%	27.0%	5.7%	4.5%	13.0%	76.7%
	小学校6年	25.8%	32.0%	16.6%	7.1%	5.6%	12.9%	74.4%
	中学校2年	56.8%	18.2%	10.3%	5.4%	2.7%	6.6%	85.3%
	高校2年	39.8%	11.4%	8.1%	8.4%	6.2%	26.0%	59.4%
総計		34.9%	23.3%	15.1%	6.8%	4.8%	15.2%	73.2%

週1回以上実施している児童生徒の割合は全体で73.2%となった。「ほとんど毎日している」と答えた児童生徒が34.9%と最も多い。学年・男女別で見ると、高校2年生女子を除いたカテゴリーで週1回以上実施率が50%を超えている。男子の週1回以上実施率(79.9%)は女子(65.7%)よりも14.2ポイント高い。また、「ほとんど毎日している」は中学2年生で最も高く(56.8%)、高校2年生で減少する(39.8%)が、これは女子の実施率半減による。「まったくしない」が全体では15.2%、高校2年女子では37.7%にのぼる。このように全体としては7割以上の児童生徒が体育の時間以外にスポーツを週1回以上行っているが、毎日のように行う割合は女子よりも男子のほうが高く、学年が上がるにつれて高まり高校で低下する傾向がある。

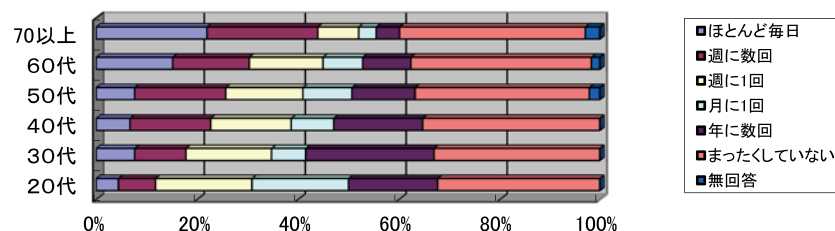
問 【児童生徒】 この一年間に行ったスポーツを主なものから3つ選んでください。(上位のみ)

実施種目	割合	実施種目	割合
水泳	21.3%	バスケットボール	14.3%
サッカー	20.7%	ウォーキング	13.7%
バドミントン	18.8%	野球	13.5%
ジョギング	17.1%	ボウリング	12.6%
ラジオ体操	14.5%	ソフトボール	8.6%

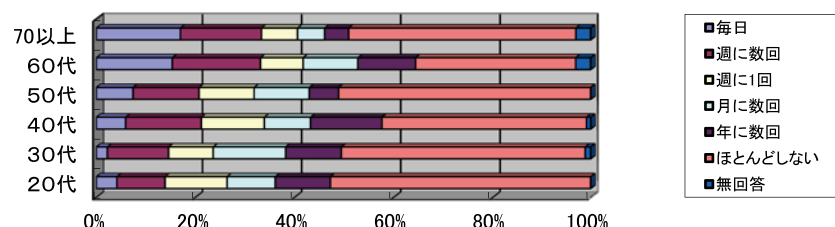
上位から水泳（21.3%），サッカー（20.7%），バドミントン（18.8%），ジョギング（17.1%）となった。前回調査ではウォーキングがもっとも多かったが、水泳も変わらず上位にあり全体的に目立った変化はないようである。また、選択肢になかったその他競技としてフットベースボールを挙げる回答者が多く、ドッジボールやバレエといった回答も見られた。

問【成人】日頃、スポーツや運動をしていますか。

【今回調査】



【前回調査】



◆週1回以上スポーツや運動を実施している人の割合

	20代	30代	40代	50代	60代	70以上	全体
今回調査	30.9%	34.7%	38.7%	41.0%	44.9%	52.0%	42.1%
前回調査	26.4%	23.6%	33.9%	31.9%	41.7%	40.6%	34.7%

成人のスポーツ実施について、今回調査では「まったくしていない」と答えた人の割合が全世代でもっとも多く、世代が上がるにつれて増加している。ただし、前回調査に比べてほとんどの世代で減少している。週に1回以上スポーツや運動を実施していると答えた人の割合は42.1%であり、前回調査から7.4ポイント上昇したが、50%の目標には届いていない。「週1回以上スポーツや運動をする市民の割合を50%にする」という目標について、成人だけで見た場合、最終目標は達成されていないが、前回調査と比べて改善されている。スポーツ実施率をもっとも改善したのは70代以上で、今回調査では52.0%と、前回調査から11.4ポイント上昇しており、世代別では唯一50%を上回った。また30代、50代でも一定の改善がみられる。

◆男女別・世代別の週1回以上スポーツ実施率

	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	全体
男性	27.3%	47.6%	44.7%	42.9%	53.5%	53.9%	48.1%
女性	32.6%	26.7%	33.8%	41.0%	38.6%	52.6%	38.1%

◆職業別の週1回以上スポーツ実施率

自営	49.2%	学生	42.9%
無職	48.2%	農林漁業	38.5%
公務員・団体員	45.0%	会社員	38.3%
家事専業	45.0%	パート・アルバイト	35.4%

男女別にみると、男性は48.1%と、50%に近い実施率となった一方、女性の実施率は男性のそれより10ポイント低い。職業別では、自営業と無職（定年退職者を含む）の実施率が50%に近づいている。

対して会社員やパート・アルバイトの実施率は30%代と低い。余暇時間の確保のしやすさとの関連が考えられる。

問 【成人】この1年間で行ったスポーツや運動はなんですか。（複数回答）（上位のみ）

ウォーキング	58.5%	ヨガ・ピラティス	9.4%
ラジオ体操	32.1%	水泳	8.1%
ジョギング	16.1%	サイクリング	7.3%
ゴルフ	14.8%	バドミントン	6.7%
ボウリング	13.2%	ソフトボール	6.1%
グラウンド・ゴルフ	10.8%	テニス	5.1%

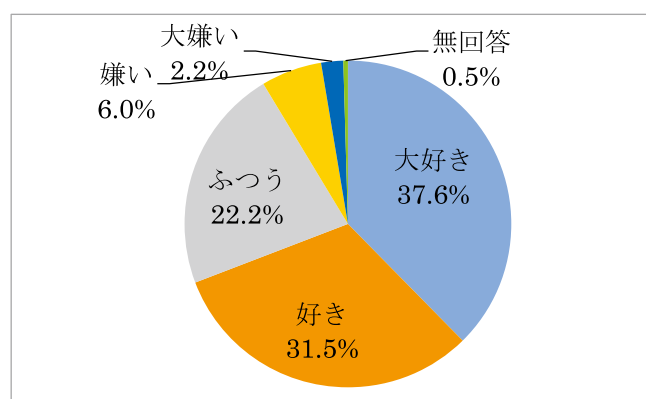
過去1年間で実施したスポーツでは、ウォーキング（58.5%）、ラジオ体操（32.1%）、ジョギング（16.1%）と、健康志向のスポーツが上位を占める。次にゴルフ、ボウリング、グラウンド・ゴルフなどのレジャースポーツの割合が高い。以降、ヨガ・ピラティス（新規項目）、水泳、サイクリングが続く。全体に健康志向型のスポーツを実施する人が多いようである。上位のウォーキングとラジオ体操の実施率は世代が上がるにつれて上昇している。

児童生徒の体育の時間以外でのスポーツ実施率は、中学校までは上昇するものの高校で大きく低下する。成人ではさらに低下するが、世代が上がるにつれて緩やかに上昇する。「市民のスポーツ参加」を成人のスポーツ実施率から考えると、市として掲げる目標にはまだ届いていないと言える。また実施されるスポーツは、高齢世代による軽い運動に若干偏っている印象を受ける。

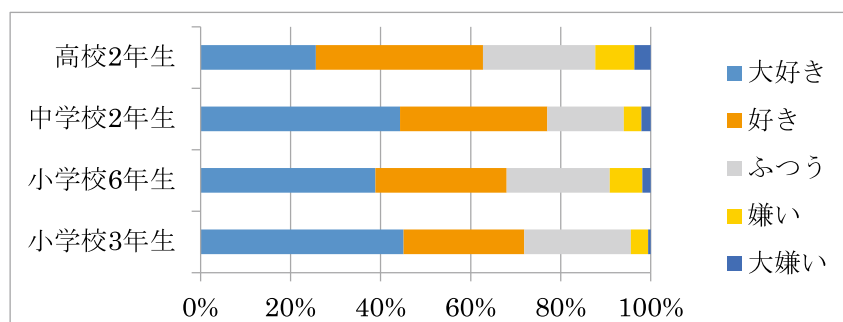
b. 市民のスポーツ実施に対する意識

ここでは、スポーツや運動に対する嗜好や実施目的などがスポーツ実施率とどのような関係があるかを見ていく。

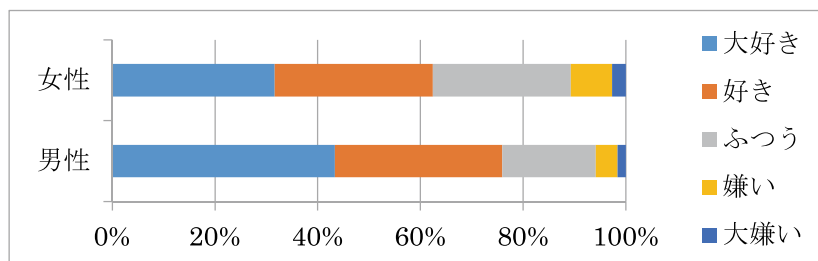
問 【児童生徒】スポーツをするのが好きですか。



◆学年別集計



◆男女別集計



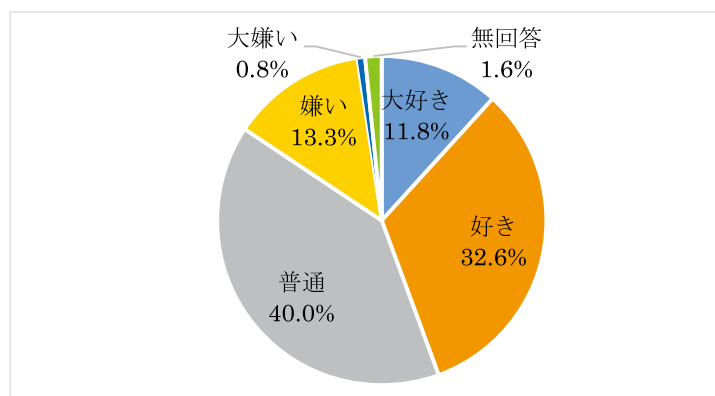
スポーツをするのが「大好き」「好き」と答えた児童・生徒はそれぞれ37.6%、31.5%となり、合わせて69.1%にのぼる。この割合が、学年別では中学2年生でもっとも高くなり、男女別では男子のほうが13.5ポイント高くなっている。高校生女子では「嫌い」「大嫌い」の合計が17.3%と非常に高い。

◆スポーツ実施率との関係

スポーツをするのが	大好き	好き	ふつう	嫌い	大嫌い
週1回以上スポーツ実施率	92.5%	75.1%	52.4%	33.6%	27.7%

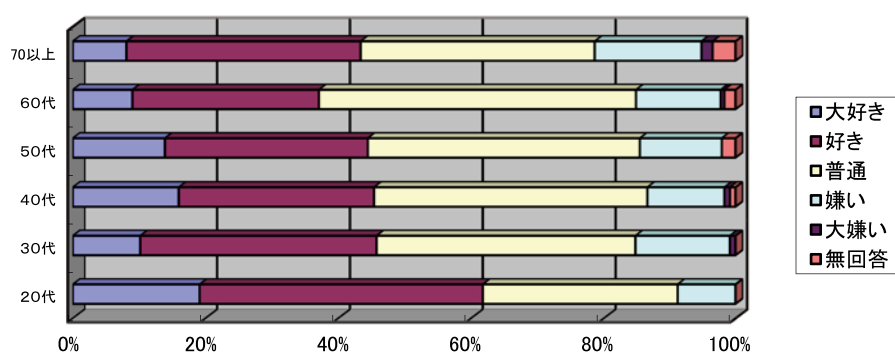
また、「大好き」「好き」と答えた児童生徒のうちそれぞれ92.5%、75.1%が週1回以上スポーツを実施し、逆に「大嫌い」では実施率が27.7%と非常に低く、スポーツの嗜好とスポーツ実施率との間に明確な関係がみられた。

問【成人】スポーツをするのが好きですか。



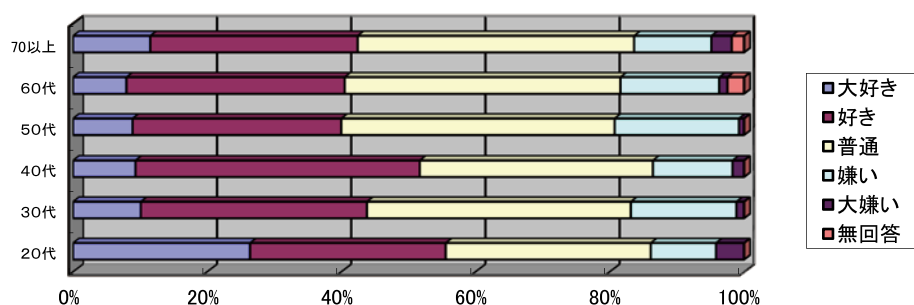
スポーツをするのが「大好き」「好き」と答えた回答者はそれぞれ11.8%、32.6%と、合計で44.4%にのぼり、「嫌い」「大嫌い」の合計の14.1%を大きく上回る。

【今回調査】



◆世代別集計

【前回調査】



◆世代別、スポーツをするのが「大好き」「好き」と答えた人の割合

20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
61.8%	45.8%	45.8%	45.4%	37.7%	44.9%

◆男女別、スポーツをするのが「大好き」「好き」と答えた人の割合

女性	男性
36.1%	56.3%

スポーツをするのが「大好き」「好き」と回答した人の割合は、世代間での大きな違いは見られなかったが、男女別では男性のほうが高く、男女間で大きな差がある。

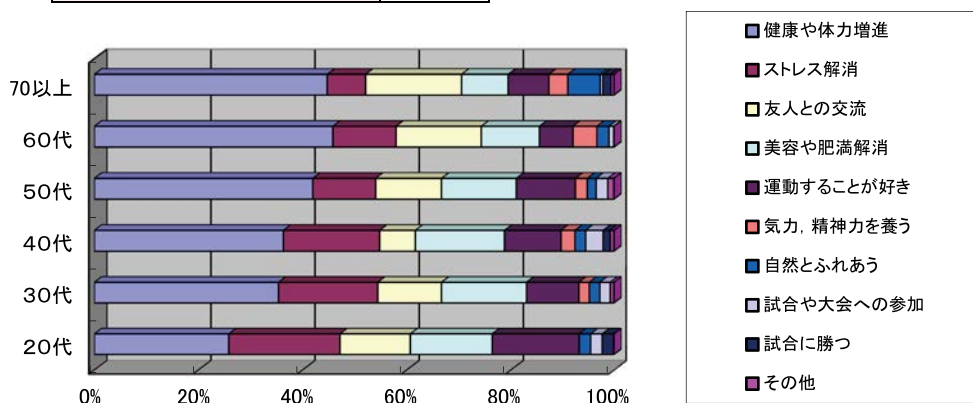
◆スポーツ実施率との関係

スポーツをするのが	大好き	好き	ふつう	嫌い	大嫌い
週1回以上スポーツ実施率	70.2%	53.5%	34.8%	15.1%	33.3%

スポーツをするのが好きであるほど実施率も高まる傾向は見られるが、「大好き」「好き」と答えた人の週1回スポーツ実施率はそれぞれ70.2%、53.5%程度にとどまる。

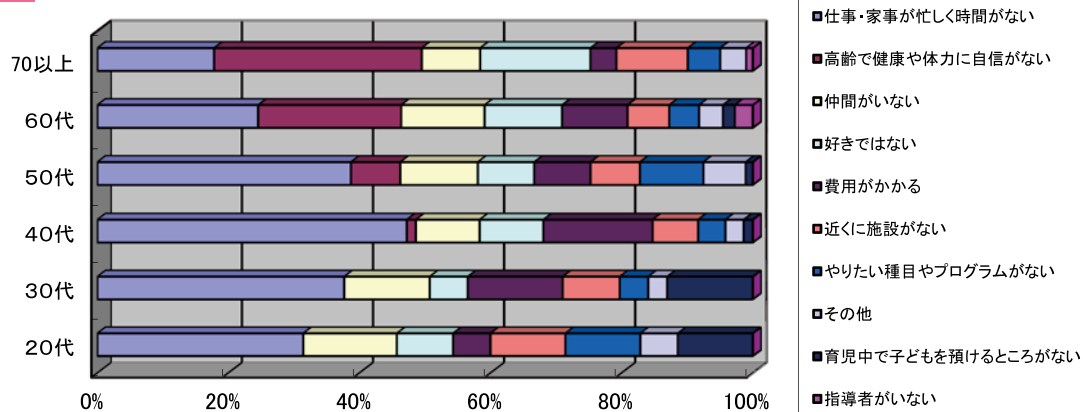
問 【成人】スポーツや運動をする理由は何ですか。（2つまで）

健康や体力増進	75.6%	気力、精神力を養う	5.5%
ストレス解消	26.6%	自然とふれあう	5.5%
友人との交流	26.0%	試合や大会への参加	3.3%
美容や肥満解消	25.4%	試合に勝つ	1.4%
運動することが好き	18.7%		



回答者の75.6%がスポーツや運動実施の理由として「健康や体力増進」のためと答えている。世代別では、年代が上がるにつれ「健康や体力増進」、若い世代ほど「ストレス解消」をスポーツや運動実施の目的としている割合が高まる。少数だがその他として「家族と一緒にするため」という回答も見られた。

問【成人】スポーツや運動を行わない理由は何ですか。（複数回答）



若い世代は「仕事・家事が忙しく時間がない」を主な理由として挙げている（40代では54.1%）。「介護中である」「子育て中である」ことをその他理由として挙げる人も見られ、30代、40代は特に時間の確保が難しいことがうかがえる。また、この世代では「費用がかかる」の割合も高い。高齢世代は「高齢で健康や体力に自信がない」を主な理由として挙げている。その他理由として「病気・けがをしているから」を挙げる回答者も散見された。スポーツ実施の目的として健康や体力の維持増進を挙げる人が多い中、健康状態や体力への不安がスポーツ実施への障壁にもなっていることが考えられる。

◆スポーツ実施状況と、就学時期別スポーツ習慣の関係

現在のスポーツ実施状況	各就学時期にスポーツを「よくやった」と回答した人の割合		
	小学生時	中学生時	高校生時
週1回以上実施する	50.0%	53.0%	38.4%
週1回未満	39.0%	45.0%	26.2%

スポーツ経験について聞く質問では、小学校、中学校、高校の時に体育以外でスポーツを「よくやった」と回答した人の割合を、現在スポーツを週1回以上実施する人と週1回未満の人とに分けて集計した。週1回以上実施者はそれ未満の人に比べ、学齢期にスポーツを日常的に行っていた割合が若干高いが、その割合は5割程度であり、週1回未満実施者の割合と大きく変わらない。

児童生徒、成人ともに、スポーツをするのが好きな人はスポーツを実施する可能性が高いという明らかな傾向がある。一方でスポーツが好きだと答えた成人回答者の割合は児童生徒よりも低く、男女別・世代別のばらつきもあり、スポーツ実施率の低さの原因のひとつと考えられる。また、スポーツの目的として健康の維持増進が非常に高い割合を占め、健康志向型のスポーツを行う高齢者が多いことがうかがえる。スポーツ実施への障壁となる理由は世代別・男女別に様々なものがあるが、主には時間確保の難しさや健康・体力に対する不安などである。成人回答者が小学生から高校生の時までにに行ったスポーツ経験は、その人のスポーツ実施習慣とあまり相関しておらず、子どもの時のスポーツ経験が成人してからのスポーツ習慣に影響を与えるとも考えにくい。

c. スポーツと健康・福祉

ここでは市民の健康意識とスポーツ実施の関連性を見ていく。

問【成人】自分の健康状態について日頃どう思っていますか。

	女性		男性		全体	
世代	良好である	不安である	良好である	不安である	良好である	不安である
20代	23.9%	8.7%	31.8%	4.5%	26.5%	7.4%
30代	16.0%	25.3%	23.8%	16.7%	18.6%	22.0%
40代	16.9%	23.9%	20.8%	12.5%	18.5%	19.3%
50代	12.5%	32.5%	12.5%	15.6%	12.5%	25.0%
60代	4.4%	42.2%	15.9%	20.5%	10.1%	31.5%
70代以上	15.4%	30.8%	12.9%	26.9%	14.0%	29.1%
全体	13.9%	29.1%	17.1%	18.8%	15.3%	24.5%

健康状態が「不安である」と答えた人は全体の24.5%であり、「良好である」の15.3%を大きく上回った。世代別にみると、高齢になるほど「不安である」が増える傾向が見て取れる。男女別では、女性の方が「不安である」と答えた人の割合が全世代で男性を上回る。

◆健康状態とスポーツ実施率の関係

自分の健康状態	良好である	ふつうである	不安である	わからない
週1回以上スポーツ実施率	60.3%	41.9%	33.2%	45.5%

健康状態が「不安である」と回答した人のうち、週1回以上スポーツを実施している人の割合は33.2%と低く、逆に「良好である」と答えた人のスポーツ実施率が60.3%と高い。健康を維持するというスポーツ実施の目的と整合性がある一方、スポーツをすることで健康状態に自信を持つようになる効果を表すとも考えられる。

問【成人】自分の体力についてどう思っていますか。

	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	全体
自信がある	19.1%	4.2%	10.1%	4.2%	7.9%	5.8%	7.5%
自信がない	26.5%	42.4%	34.5%	34.7%	38.8%	29.2%	34.8%

体力について「自信がない」と答えた人は全体の34.8%と高く、「自信がある」(7.5%)との差が大きい。若い世代ほど自信があるという傾向はみられるが、健康状態ほどの明らかな傾向はない。

◆自分の体力の認識とスポーツ実施率の関係

自分の体力について	自信がある	ふつうである	自信がない
週1回以上スポーツ実施率	75.0%	47.7%	26.8%

自分の体力に「自信がある」と答えた回答者の週1回以上スポーツ実施率は75.0%と非常に高く、逆に「自信がない」と答えた人の実施率は26.8%と低い。体力に自信がある人がスポーツを通じて体力維持を図る、あるいはスポーツの実施により体力に自信をつける、といった背景が考えられる一方、体力に自信がなく、したがってスポーツ実施がもっとも望まれる市民がスポーツ活動に参加できていない状況も示唆する。

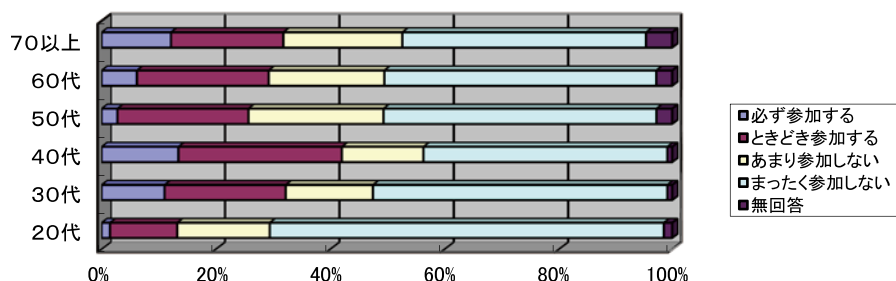
前項では、世代が上がるにつれて週1回以上スポーツ実施率は上昇していることを確認した。また、実施するスポーツも主に健康志向型であり、スポーツ実施が市民の健康促進に寄与していると考えられる。しかし、全体のスポーツ実施率があまり高くないことを考えると、市民によるスポーツ活動の実態は「高齢者による健康維持のための軽い運動」に若干偏っているのではないだろうか。「あらゆる世代が楽しみ、交流できる機会」としてスポーツをとらえた場合、市民全体の意識は決して高いとは言えない。

3 スポーツとまちづくり

a. スポーツと地域コミュニティ

ここでは、市民による地域のスポーツ大会や運動会への参加、施設の使用状況などを通して、地域コミュニティにおけるスポーツの役割について考える。

問【成人】地域のスポーツ行事に参加していますか。



◆地域スポーツ行事に「必ず参加する」「ときどき参加する」と答えた人の割合

20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	全体
13.4%	32.5%	42.4%	26.4%	30.1%	33.3%	30.1%

地域のスポーツ行事に「必ず参加する」「ときどき参加する」と回答した人の割合は全体の30.1%であった。逆に、「あまり参加しない」「まったく参加しない」と回答した人が全世代で大半を占める。30代から40代の参加率が比較的高い。

問【成人】総合型地域スポーツクラブに加入していますか。

加入している	2.0%
加入していない	46.2%
総合型地域スポーツクラブを知らない	51.9%

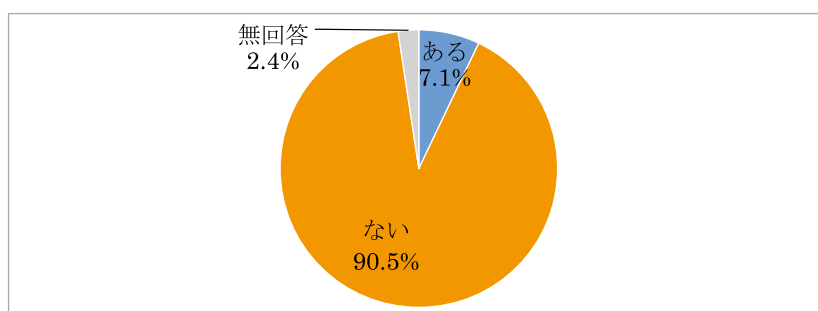
「加入している」と答えた人はほとんどいない。半数以上は「知らない」と回答している。

問【成人】スポーツ推進委員の活動内容を知っていますか。

	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	全体
知っている 多少知っている	2.9%	2.5%	11.0%	11.3%	14.9%	16.7%	11.2%
推進委員を知らない	79.4%	67.8%	50.8%	39.7%	38.5%	28.0%	46.3%

推進委員の活動内容を「知っている」と答えた人は全体で1割強と非常に少ない。推進委員自体を知らないと答えた人も半数近くのにのぼり、認知度はまだ低いと言える。特に若い世代の人たちにはほとんど知られていない。

問【成人】この一年間に何らかのスポーツに関するボランティア活動を行ったことがありますか。



ボランティア活動経験の有無に関しては、経験者が回答者の1割にも満たない低い水準であった。

問【成人】行ったことのあるスポーツボランティア活動は何ですか。（複数回答）

地域のスポーツイベントの運営や世話	46.4%
日常的な団体・クラブの運営や世話	42.9%
日常的なスポーツの指導	30.4%
日常的なスポーツの審判	25.0%
日常的なスポーツ施設の管理の手伝い	14.3%
地域のスポーツイベントの審判	14.3%
全国的・国際的なスポーツイベントの運営や世話	7.1%
全国的・国際的なスポーツイベントの審判	0.0%
その他	5.4%

（割合はボランティア経験者数を分母とする）

ボランティア活動経験者のうち4割以上の人が「地域のスポーツイベントの運営や世話」（46.4%）あるいは「日常的な団体・クラブの運営や世話」（42.9%）を行っている。

◆男女別、ボランティア活動経験がある人の割合

女性	男性
3.9%	11.3%

ボランティア活動経験者の絶対数が非常に少ないため、傾向を見るのは難しいが、世代別の差異はほとんどなく、男女別では男性の比率が高い傾向が見られる。

◆ボランティア活動経験者とスポーツ実施頻度の関係

スポーツ実施頻度	毎日している	週に2回以上している	週に1回程度している	月に1回程度している	年に数回程度している	まったくしていない
ボランティア活動経験者	14.3%	35.7%	16.1%	8.9%	10.7%	14.3%

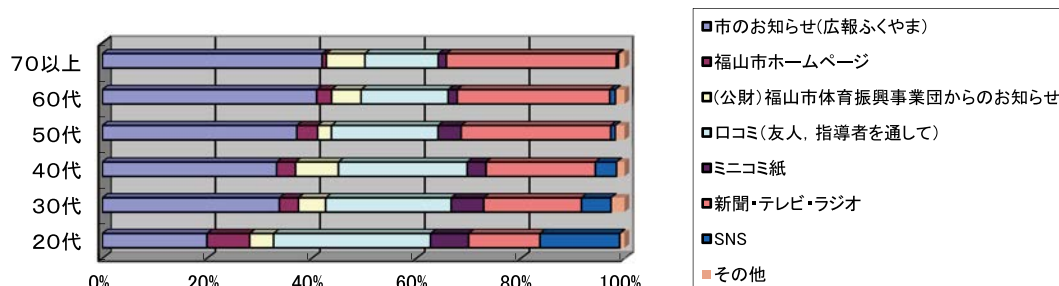
スポーツを週1回以上行う人はボランティア活動への参加率も比較的高い。

◆ボランティア活動経験者とスポーツ実施嗜好の関係

スポーツをするのが好きか	大好き	好き	ふつう	嫌い	大嫌い
ボランティア活動経験者の割合	14.9%	10.5%	4.4%	0.9%	0.0%

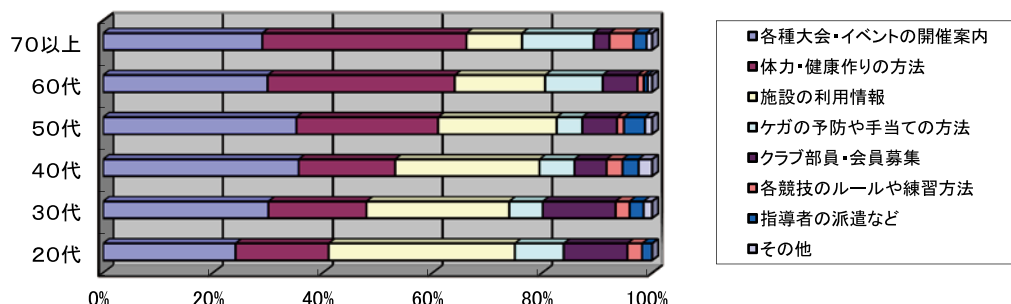
スポーツをするのが「好き」「大好き」と答えた人たちのボランティア活動参加率も高い傾向がある。

問【成人】福山市内のスポーツ情報を主にどこから得ていますか。



高齢世代は市の広報紙や新聞等のメディア、若い世代は口コミやSNS、福山市HPを通して地域のスポーツに関する情報を得ており、世代間の傾向が比較的明確に見られた。

問 【成人】どのようなスポーツ情報がほしいですか。



高齢世代では「体力・健康作りの方法」の割合が多く、健康志向のスポーツ実施目的と整合する。一方、若い世代では「施設の利用状況」の割合が多い。いずれの世代も自身のスポーツ実施に関連した情報に対する需要が高い。

問 【成人】生涯スポーツ振興のためのスポーツ施策として何を望みますか。（2つまで）

スポーツを通じた仲間づくり・交流の促進	33.9%
老朽化したスポーツ施設の修繕・改修やバリアフリー化	30.9%
施設利用のサービス向上（時間延長・手続き簡略化など）	25.1%
大きな大会（全国大会・プロスポーツ）の誘致	15.9%
新たなスポーツ施設の建設	15.6%
スポーツ指導者の養成・育成	12.1%
学校開放の充実	11.0%
スポーツに関する相談・情報提供の充実	8.4%
プロスポーツチームの誘致・設立の支援	7.9%
ニュースポーツの紹介や育成	2.6%
その他	1.4%

福山市に求められている施策としては、「スポーツを通じた仲間づくり・交流の促進」が最も多く回答者の33.9%であった。次に、「施設の修繕・改修」（30.9%）、「施設利用のサービス向上」（25.1%）など、既存の施設の有効利用に関する項目が続く。これらはスポーツ実施目的やほしい情報についての傾向と整合する。また「大きな大会（全国大会・プロスポーツ）の誘致」と答えた回答者も15.9%にのぼり、「みる」スポーツ参加への需要の高さを表している。

問 【成人】福山市の既存スポーツ施設について、あなたが重要と考える整備の内容はどのようなものですか。（2つ）

老朽化した施設・設備の修繕・改修による長寿命化	34.9%
駐車場の拡充	27.9%
耐震補強や安全点検の徹底などによる安全性の確保	24.1%
空調設備やスポーツ器具等の充実	18.6%
高齢者や障がい者のためのバリアフリー化	15.8%
新たな施設への更新	15.3%
休憩スペース、飲食店の充実	14.4%
新たなスポーツ（クライミング、スケートボード等）ができるための対応	9.6%
管理コスト削減のための統廃合	8.1%

「老朽化した施設・設備の修繕・改修による長寿命化」が34.9%と最も高い。これは市民のコスト意識の高まりを表していると考えられる。「駐車場の拡充」が27.9%で2番目に多く、自動車が施設へのアクセス方法の大半を占めることを反映している。「耐震補強や安全

点検の徹底などによる安全性の確保」（24.1%）がこれに続く。その他意見として「災害時の避難場所としての整備」などスポーツ関連以外での利用を想定する意見も少数ながら見られた。

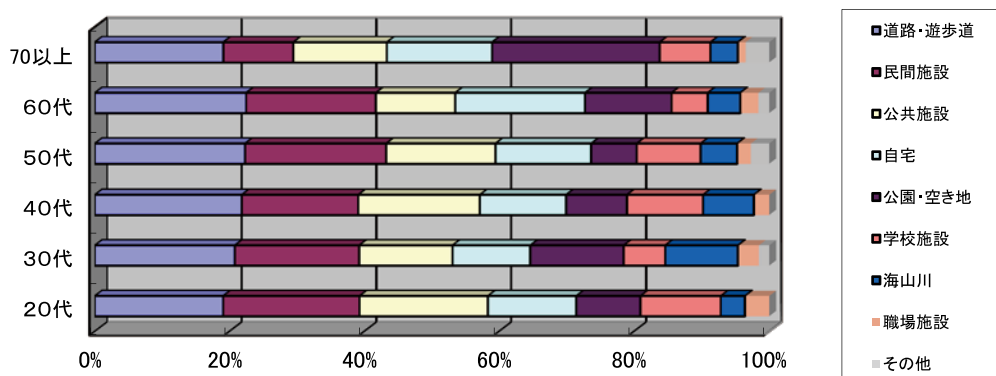
総合型地域スポーツクラブやスポーツ推進委員などの、市による施策があまり認知されていないことが明らかとなった。地域のスポーツイベントやボランティア活動への参加度も低く、「支える」立場でのスポーツ活動参加もほとんど行われていない。地域スポーツ活動に対する市民の意識は高いとは言えない。一方でスポーツ施設利用の利便性向上やプロスポーツの誘致などへの要望は多く、「する」「観る」スポーツに対する需要は確かに存在する。若い世代が欲しているスポーツ施設の利用状況についての情報を、この世代の情報の主な入手方法に合わせて提供することが、若者のスポーツ実施率を改善するうえで有効であると考えられる。

b. スポーツ施設の環境整備

前項で、スポーツ施設の利用やプロスポーツ誘致などに対する需要の高さを確認したが、ここではスポーツ関連施設の実際の利用状況について見ていく。

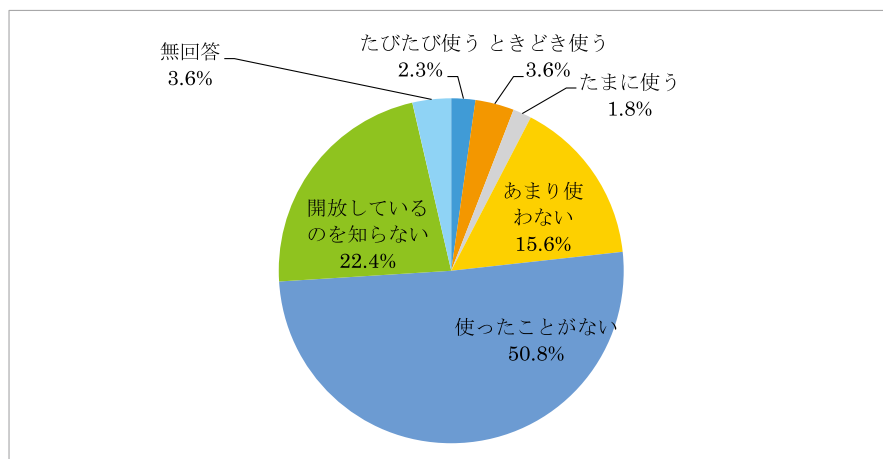
問 日頃、スポーツや運動をする場所はどこですか。（複数回答可）

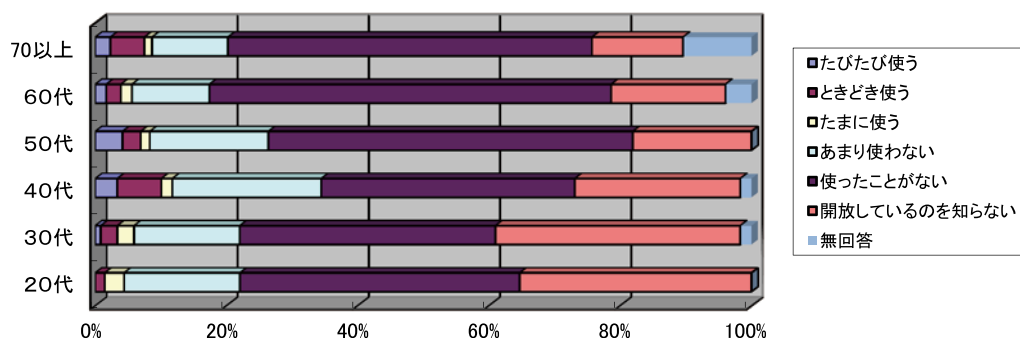
道路・遊歩道	民間施設	公共施設	自宅	公園・空き地	学校施設	海山川	職場施設
35.4%	29.3%	25.2%	25.0%	22.6%	13.8%	10.0%	3.9%



スポーツをする場所として「道路・遊歩道」が35.4%と最も多く、ウォーキング・ジョギングの実施の多さを反映している。続いて「民間施設」が29.3%、「公共施設」が25.2%となった。世代別では、70代以上が公園や空き地を利用する割合が高い。

問 【成人】 公立の小・中学校の体育施設を利用したことはありますか。





「たびたび使う」（2.3%）、「ときどき使う」（3.6%）、「たまに使う」（1.8%）を合計しても7.7%と非常に低く、ほぼ利用されていないと言える。「開放しているの知らない」と回答した人の割合は22.4%に達し、この割合は、ほしい情報として「施設の利用状況」を挙げた人の多い若い世代ほど高くなっている。既存施設の有効利用が理想から遠い現状を明確にしていると同時に、市の施策が市民にうまく伝わっていない可能性を示唆する。

問【成人】過去5年間で使ったことがある福山市の公立スポーツ施設を選んでください。（複数回答）

体育施設名	割合	体育施設名	割合
緑町公園屋内競技場（ローズアリーナ）	7.8%	富谷運動場	1.1%
福山市体育館	7.0%	蔵王公園運動場	1.1%
竹ヶ端運動公園庭球場	4.3%	障害者体育センター	1.1%
駅家公園運動場	3.9%	新市中央運動場	1.0%
沼隈体育館	3.8%	竹ヶ端運動公園水上スポーツセンター	0.9%
竹ヶ端運動公園陸上競技場	3.5%	みのしま運動場	0.9%
福山市グラウンド・ゴルフ場（加茂）	3.3%	福山城公園庭球場	0.9%
松永健康スポーツセンター	3.0%	松永グリーンパーク（庭球場・水泳場）	0.9%
竹ヶ端運動公園運動広場	2.9%	神辺運動場	0.8%
箕沖球場	2.8%	神辺スポーツ広場	0.8%
芦田川緑地運動場（14箇所）	2.8%	新市スポーツセンター	0.8%
竹ヶ端運動公園水泳場	2.6%	福山市体育館トレーニングルーム	0.6%
新涯四丁目公園運動場	2.5%	福山市武道館	0.6%
緑町公園屋内競技場トレーニングルーム	2.3%	瀬戸公園運動場	0.6%
松永運動場	2.3%	大佐山運動公園（野球場・庭球場）	0.6%
曙公園野球場	1.9%	北本庄庭球場	0.5%
手城東公園サッカー場	1.9%	常金運動場	0.5%
芦田川グラウンド・ゴルフ場	1.9%	福山テクノ公園運動場	0.5%
福山テニスセンター（大門）	1.8%	沼隈グラウンド・ゴルフ場	0.5%
神辺テニスセンター	1.6%	竹ヶ端運動公園弓道場	0.4%
竹ヶ端運動公園野球場	1.4%	加茂公園野球場	0.4%
沼隈運動場	1.3%	神辺体育館（アリーナ・弓道場）	0.4%
丸之内公園水泳場	1.3%	のうじま運動場	0.1%
沼隈体育センター	1.3%	二の川公園庭球場	0.1%

もっとも使用されている緑町公園屋内競技場（ローズアリーナ）でも、回答者の7.8%しか利用しておらず、公立スポーツ施設の利用が非常に少ないことが分かる。

◆公立スポーツ施設使用者の使用回数（分母は利用経験者）

週 2 回以上	3.9%
週 1 回くらい	11.0%
月 1～2 回くらい	9.4%
年に数回くらい	73.7%
無回答	1.9%

施設使用の回数も、大半の利用者（73.7%）が年に数回の利用にとどまっている。

◆スポーツ施設への主なアクセス方法

電車・バス	1.6%
自動車	82.8%
自転車	6.2%
徒歩	6.2%

スポーツ施設の整備状況や利用料金、利用手続きなどに関する設問については、否定的な意見はあまりなく、利便性などに問題はないと思われるが、施設へのアクセスはほとんどが自動車によるものであるためか、駐車場の提供や整備を求める意見が散見された。

問 【成人】新総合体育館が完成した後、あなたはどのようなスポーツや活動で新総合体育館を利用したいですか。（2 つまで）

体育施設	割合	体育施設	割合
プロスポーツ観戦	35.6%	その他	3.1%
音楽コンサート・文化事業	31.8%	バスケットボール	3.0%
展示会、見本市	14.3%	ソフトテニス	3.0%
ヨガ、ピラティス	11.0%	ソフトバレーボール	2.4%
バドミントン	9.5%	少林寺拳法・空手・太極拳・合気道	2.0%
バレーボール	7.5%	トランポリン	1.8%
卓球	6.1%	剣道	1.6%
ジャズダンス、エアロビクス、ヒップホップダンス	4.5%	ニュースポーツ	1.5%
テニス	3.9%	柔道	1.4%
パブリック・ビューイング	3.9%	学会・会議	0.9%
フットサル	3.3%	フェンシング	0.1%
体操	3.1%		

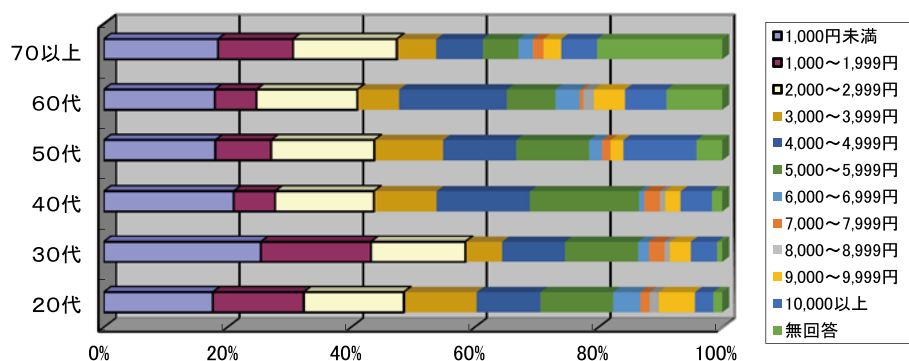
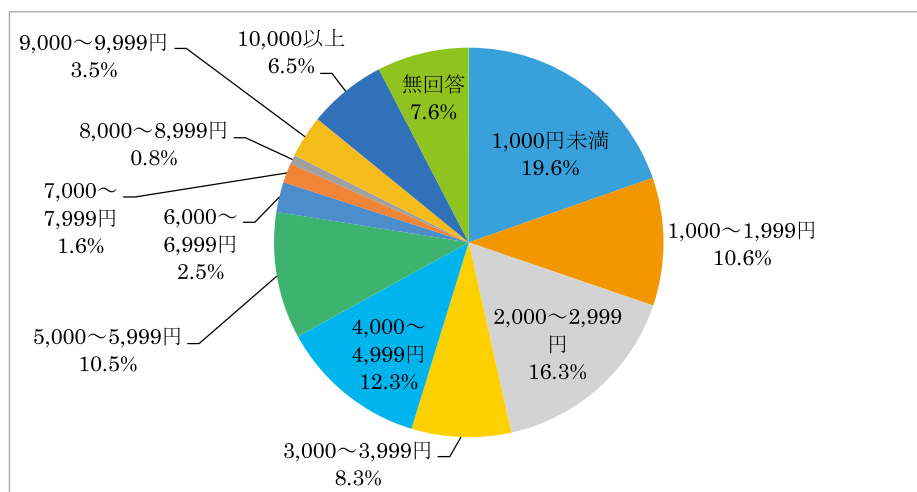
新総合体育館の利用方法としては、「プロスポーツ観戦」がもっとも多く、回答者の 35.6%と非常に多い。また、スポーツ実施のための利用希望も見られるが、同時にスポーツ以外での利用（音楽コンサート・文化事業、展示会・見本市）を希望する回答も多い。その他の意見として「遠方なので利用しない」などのアクセスに対する不安・不満も見られる。

既存の公共スポーツ施設の利用は限定的であり、関連情報を得にくい現状の改善が必要であると考えられる。一方で、大型スポーツイベントやプロスポーツ公式戦の開催可能な施設に対する要望が高く、このようなイベントの誘致とそのための積極的な施設整備は、まちづくりの観点から有効であると考えられる。

c. スポーツ関連費用・料金

ここでは、スポーツの持つ経済的な側面について見ていく。

問 【成人】スポーツにかかる費用は一カ月いくらまでと考えますか。



◆男女別・世代別平均スポーツ関連支出許容額（単位：円）

	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	全体
女性	3,696	3,267	3,580	3,559	3,100	3,462	3,420
男性	3,595	3,232	3,948	4,532	4,890	3,340	4,049

各選択枝の中央金額（ただし「10,000円以上」は10,000円）を用いて計算した平均金額を「1か月のスポーツ関連支出許容額」として表している。全体では平均で1人当たり1か月3,694円までとなった（選択枝の下限金額／上限金額を用いて計算した場合はそれぞれ3,229円／4,157円）。中央値は2,000円～2,999円であった。ただし、1,000円未満と回答した人も20%以上いる。男女別では、男性のほうが女性より600円程度高い。世代別に見るとその差は50代から60代で大きくなっている。

◆職業別平均スポーツ関連支出許容額（単位：円）

農林漁業	2,500
自営（商工・サービス等）	5,464
会社員	3,986
公務員・団体職員	3,900
家事専業	3,081
パート・アルバイト	3,157
学生	3,692
無職	3,409

過去1年間のスポーツの直接観戦経験について比較すると、観戦したことがある人はスポーツにかける費用の許容額が1カ月あたり4,155円であり、観戦経験のない人の3,364円に比べて800円程度高くなっている。

問 【成人】 スポーツを見るのが好きですか。

問 【成人】 過去1年間で直接スポーツを観戦したことがありますか。

		観戦するのが好き	直接観戦した
女性	20代	60.9%	60.9%
	30代	56.8%	49.3%
	40代	54.3%	59.4%
	50代	62.0%	48.1%
	60代	39.8%	25.0%
	70代以上	62.3%	35.5%
男性	20代	63.6%	59.1%
	30代	61.9%	35.7%
	40代	66.7%	56.3%
	50代	76.6%	55.6%
	60代	77.6%	47.1%
	70代以上	65.9%	46.1%

スポーツを「直接観戦するのが好き」と答えた人の割合は世代別・男女別でそれほど大きな違いは見られない。高齢になるほど、「好き」と答えた人の割合と「直接観戦した」と答えた人の割合の乖離が大きい、つまり高齢者ほどスポーツ観戦の需要を満たせていない。

問 【成人】 直接観戦したスポーツ種目はなんですか。（複数回答）

野球	83.5%	大相撲	5.8%
サッカー	15.9%	テニス	4.4%
ゴルフ	11.0%	バスケットボール	3.6%
バレーボール	8.0%	K-1などの格闘技	1.6%

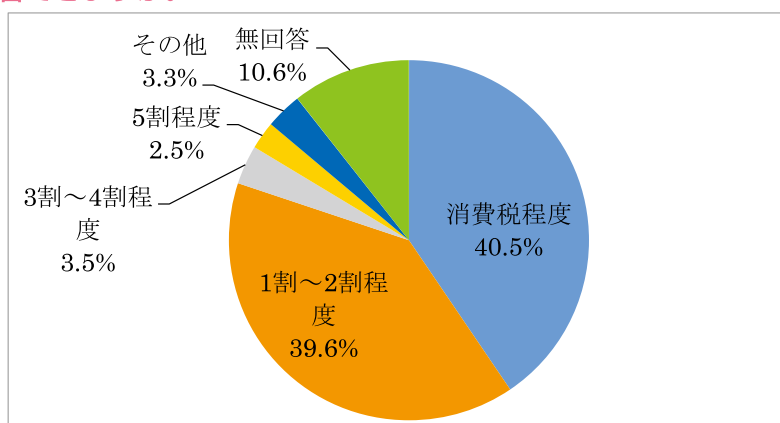
直接観戦の経験者が観戦したプロスポーツの種目では「野球」が突出している。プロ野球公式戦が福山市内で開催されていないことから、スポーツ観戦による市内での経済効果は極めて限定的であると考えられる。

問 【成人】 （現行の）施設利用料金をどう思いますか。

安い	22.1%
ふつう	39.3%
高い	5.8%
わからない	29.5%
無回答	3.2%

市のスポーツ施設利用者のなかで、現行の利用料金が「高い」と答えた人の割合は5.8%しかおらず、施設利用料が高いという意識はないようである。これは、スポーツをするのが好きか嫌いか、スポーツをするかしないか、にかかわらない。現行の料金にはおおむね異論がない様子である。ただし、「わからない」が3割近くおり、利用状況も踏まえると必ずしも現行料金が妥当と考えられているとも言いきれない。

問 【成人】施設の維持を目的に施設利用料金を増額するとしたら、いくらの上げまで許容できますか。



◆世代別集計

	消費税程度	1～2割程度	3～4割程度	5割程度
20代	49.3%	46.3%	1.5%	0.0%
30代	57.8%	31.0%	5.2%	4.3%
40代	45.6%	41.2%	7.0%	0.9%
50代	39.6%	48.5%	3.0%	3.0%
60代	37.3%	54.2%	3.9%	2.0%
70代以上	47.3%	42.0%	2.3%	5.3%

施設利用料金の増額に関しては、「消費税程度」「1～2割程度」がそれぞれ40.5%、39.6%となり、1割程度までは大半が許容できるという結果となった。これはどの世代でもほぼ変わらない。一方でその他意見として「まったく許容できない」といった意見や、「高齢者への無料化希望」など配慮を求める意見も多く見られた。

問 【成人】将来的に市民負担が増えたとしても、市で今後整備してほしい施設を3つまで選んでください。

体育施設	割合	体育施設	割合
ウォーキングコース	34.8%	庭球場	8.8%
体育館	29.8%	スケートリンク	6.0%
野球場	27.5%	クライミングボード	4.9%
トレーニングルーム	23.8%	武道館	3.0%
サイクリングコース	20.5%	スケートボードパーク	2.0%
水泳場	17.6%	弓道場	1.9%
陸上競技場	13.8%	ラグビー場	1.1%
サッカー場	11.3%	ヨットハーバー	1.1%

ウォーキングコースに対する需要がもっとも高く（回答者の34.8%）、次いで体育館（29.8%）、野球場（27.5%）であった。

公共スポーツ関連施設の利用が低迷していることは明らかであるが、市民のスポーツ施設への期待は大きく、その形態も様々である。既存施設については、その利用状況の改善が主に、施設関連情報への需要が高い若い世代のスポーツ実施率の改善に貢献すると考えられる。また、新しい施設には大型のスポーツイベントなどを開催できる収容力が期待されており、プロスポーツ観戦の需要の高さと整合する。市民のスポーツ関連の支出許容額は決して高いとは言えないが、スポーツ観戦の経験者はそれ以外の人よりも支出許容額が高く、プロスポーツイベントの市内開催には一定の経済効果が期待できる。